

館の使命	地域の市民と共に自然と歴史に関する資料・情報を収集・蓄積すると共に、基礎的・国際的視野に立つ科学研究により、その新たな価値を発見し、教育、展示、その他すべての博物館活動を通じて県民や社会へ発信し、県民共有の知的資産として未来に伝える。 また、千葉県の中核的総合博物館として、さまざまな市民の幅広い知的ニーズに応えつつ、双方向の交流を通して、その生涯学習拠点となる。
------	---

評価項目	7展示②企画展示(入場料の変更が必要な展示) 企画展「図鑑大好き！」
項目概要	使命に則した事業であるか

評価項目	視点例	目標・指標	実績・内容	所見・指摘事項
①事業目的	・本事業の目的、企画の狙い等は、館の使命及び県民ニーズに照らし適切に設定されているか	①図鑑の価値をわかりやすく伝える。	①図鑑の使い方、選び方を解説することにより、正しく使えば自然を知るための最高のガイドブックになることを伝えることができた。	【石川】 ・企画展示とも大人には興味深く、博物館として有効と評価。展示に関して、子どものニーズとしては地味に感ずるが、調べる図鑑、戸外持参用図鑑など教育面で工夫成果を評価したい。
		②自然に興味・関心を広げてもらう。	②実物標本の名前を調べる体験型展示や、ミニミニ図鑑、下敷き図鑑づくりのイベントを通して、野外フィールドへの誘いに努めた。	【加藤】 ・館の持つ資源、人材を良く活かした好企画である。
		③幅広い年齢層の方に楽しんでもらう。	③展示では、大人向けの図鑑史展示から小中学生向けの標本同定や自由研究の展示まで、展示の多様化に努めた、また、大人向け展示、小中学生向け展示でも、全ての年齢層の方に楽しんでいただけるよう、文章、ふりがななどに留意した。イベントでも、大人が主な対象となるインターネット図鑑についての座談会から親子向けのミニミニ図鑑づくりまで、幅広い年齢層に楽しんでいただける企画を準備、実施した。	【戸枝】 ・入口インタビューパネルは、マスコミで馴染みの、おさかなクンを初めに展示し、導入として親近感をつくった。 ・「図鑑」について分かり易い展示をこころがけていた。 ・切り口が面白い。 ・図鑑の歴史と作り方(標本の描き方、表現方法)が良くわかる展示です。 ・夏休みでもあり親子連れが多く、エントランスホールのイベント(ミニミニ図鑑作り)には、ボランティアの声掛け誘導により参加者が多い。(施設の制約か、天井照明が本を見る、標本を観察するには暗いと感じた。)
		④館と市民が双方向に交流している。	④体験イベントでは受付や補助、講座、観察会では講師の補助として、延べ36名の市民ボランティアに参加していただいた。また、5名の方から展示物を借用した。期間中は展示解説で多くの来館者と交流を行うことができた。	・標本同定コーナーには、中央博らしく標本が豊富に用意されており、子ども達は図鑑を使い資料を同定していた。 ・ボランティアの指導も良い。
		⑤県民ニーズを反映している。	⑤自然に親しむ機会を増やしたいという県民ニーズに一致した展示・行事が多く、多数の来館者・参加者に楽しんでいただけた。	【黒田】 ・図鑑の成り立ちを多方向から理解することができた。 ・使用者、制作者の様々な視点を見ることができた点はとても勉強になった。 ・「自然系」博物館としての姿勢は正しく伝わっているように感じた。

評価項目	視点例	目標・指標	実績・内容	所見・指摘事項
②事業内容	・目的・ねらいを正しく反映する工夫がなされているか	①図鑑を持って野外へ出たくなる展示がなされている。	①実物の名前を調べる展示や、生態園での図鑑展示、千葉市大草生きものの里への案内など、野外へ段階を追って向かえるよう工夫した。	【加藤】 ・充実した展示で、説明文は平易で分かりやすく、事業のねらいどおり幅広い年齢層が楽しめる企画となっている。生態園の活用があれば、さらに館の魅力を演出できた。 【戸枝】 ・第1会場から第2会場への誘導が弱いと感じます。 ・誘導表示に工夫が必要でしょう。(第2会場にも素晴らしい資料と映像が展示されている) ・壁付ケース展示はやや低く展示され、視ケースにステップが用意されており子どもに見易い工夫がされている。 ・県立図書館での図鑑コーナー設置、出版社の図鑑出版での展示紹介は今後の広報活動の方法開拓にもつながるでしょう。また、各県立博物館で自館の資料に合わせた図鑑コーナーを設置し中央博物館への誘導とすることもできたかもしれません。 ・ローカル図鑑作成紹介コーナーでは、生徒の作成した図鑑多数が紹介されており、借用、展示は作成した生徒の今後の励みになります。また、職員の地域に根差した活動(調査研究、情報網)があればこそ借用できたのでしょう。 ・この夏は、特に「図鑑」という文字がマスコミに多く登場したように感じます。リンクはできませんでしたが来館動機の一つになるかも知れません。
		②図鑑の変遷がわかりやすく展示されている。	②図鑑の変遷のコーナーを設け、代表的な図鑑を年代順に並べると同時に節目には立体プレートを置いて、変化の明確化をはかった。また、写真の歴史や検索の歴史など、テーマ毎に歴史がわかる展示も行った。	
		③展示空間や資料に応じた展示手法等を工夫している。	③ガラス面と図鑑表面の距離が短くなるよう、図鑑の展示位置、ケースの選択などを工夫した。企画展自室内に手に取れる図鑑を多数配架した。盗難防止のため、当館としては初めて、盗難防止ゲートを設置した。この結果、盗難を完全に防ぐことができた。	
	・目的・ねらいを正しく反映する工夫がなされているか	④博物館ならではの図鑑展を目指している。	④実物標本の多用、生物の名前調べ方法の紹介など、図鑑を「自然を調べるため、自然に親しむためのツール」と捉えた展示を行った。	【黒田】 ・子供に向けたキャプションが少なく、理解が及ぶかどうか疑問に感じた。 ・展示ケース内の資料と、併設されている閲覧自由の実物資料の関連がいまひとつわかりづらい箇所が多々あった。 ・県内の児童が作成した図鑑展示は大変興味深かったが、彼ら周辺の児童、親子が企画展に何度も見に来てもらえるような工夫がもう少しなされているとよかった。 ・企画展で展示された資料と、常設展示の該当部分、屋外の生態園との関連などが示されていれば、企画展展示の広がりがより生まれたように思う。 ・展示補助器具(映像展示など)について、よりコンパクトにまとめるなどして、展示資料の理解の助けになるような工夫がもう少しなされているとよいと思った。
		⑤図鑑に関連した教育普及活動が行われている。	⑤図鑑の著者やカメラマン、職員による講座10回、インターネット図鑑の作成者による座談会1回、体験イベント6回など、多様な教育普及活動を実施した。	
		⑥すべての年齢層が楽しめるような展示内容になっている。	⑥展示では、大人向けの図鑑史展示から小中学生向けの標本同定や自由研究の展示まで、展示の多様化に努めた、また、大人向け展示、小中学生向け展示でも、全ての年齢層の方に楽しんでいただけるよう、文章、ふりがななどに留意した。イベントでも、大人が主な対象となるインターネット図鑑についての座談会から親子向けのミニミニ図鑑づくりまで、幅広い年齢層に楽しんでいただける企画を準備、実施した。	

評価項目	視点例	目標・指標	実績・内容	所見・指摘事項
③満足度	・入場者は、満足してくれたか	・入場者数が多い。 目標人数:32,000人 (有料入場者予定人数: 12,035人)	有料入場者数:5,642人 総入場者数:57,509人 会期が夏休み期間中と重なったこともあり、「図鑑展」という夏休みの調べ学習にうってつけだったため、小学生の来館が飛躍的に増えた。また「ミニ図鑑作り」などの体験イベントを、繰り返しやりに来るリピーターの小学生が多かったのも、今年の大きな特徴である。	【石川】 ・夏休みにかかる企画、親子体感にはそれなりのキャッチフレーズが欲しい。
		・入場料収入が多い。 (目標値: 5,005,000円)	総額:2,684,000円 夏休み期間中につき、多くの小学生が来館したこと、父母よりも祖父母に連れられた小学生も多く、無料層の来館者が大幅に増えたことが入場料収入に直接結びつかなかった大きな要因である。	【戸枝】 ・展示満足度調査が難しい。(動線軌跡調査、滞留度調査)が必要では? 各種の図鑑が、低い木製ブックラックに用意され、また、閲覧テーブル、イスの用意はゆっくり図鑑を見ることができた。 ・ケース内テーマ区分を三角柱で表示は子どもでも分かる。 ・解説パネルも解説文にNOをつけ、単調さを無くし読みやすい。文字の大きさ、内容も分かり易い。出入口のBDSは慣れない人には違和感があるかもしれない。昆虫模型や写真で入り易くする工夫があると良い。
		・アンケート調査での「面白かった」「大変面白かった」の回答数が80%以上。	今回のアンケート回収枚数は195枚であった。今年は子どもだけの来館者が多く、また祖父母に連れられた子どもたちが多かったことから、アンケートの回収率が思うように伸びなかった。 内容については「満足」、「非常に満足」が77.9%で、目標の8割をほぼ達成した。また、「不満」、「非常に不満」は2.2%だった。	【黒田】 ・目標を大きく上回る入場者数に達したことは非常に素晴らしいことだと思います。 ・ただ、有料入場者数の目標設定値と、入場者の予測年齢層が最初からかみ合っていないのではないかと。目標値は予算の調整に影響する範疇だと思うので、詳細な分析後、今後に活かしていただきたいと思います。 ・アンケートに記入してまで「不満」や満足しなかったことを表明することはとても貴重な意見であると思われるので、ぜひ今後に活かしていただきたいと思います。
④運営	・費用対効果の高い効率的な運営がなされていたか。	・集客率を上げるために主として親子連れの方に楽しんでもらう。 ・多数のイベントを計画・実施する。	・ミニミニ図鑑づくりや図鑑下敷きづくりなど、親子連れむけのイベントを多数実施した。いずれのイベントも随時受付、所要時間10分程度、できあがったものをお土産として持ち帰れる内容にした。評判は非常に良く、来館した親子の大半が参加した。チーバくんの参加した回には、特に参加者が多く、チーバくんの人気を実感した。	【石川】 ・ボランティア協力によるクイズ形式イベントは、大いに評価できる企画。また、企画展示に伴うショップ売り上げなども含め、全館体制が感じられ好ましい。生態園との連携など工夫の余地はあった。
		・ボランティアの方が多数参加し、職員とともに役割を分担して活動している。	・イベント毎に2～4名のボランティアが参加し、職員と共にイベントの運営にあたった。ボランティアはすべて普段から標本整理等のボランティアとして活動しているメンバーであるため、職員との意思疎通や事前準備も無理なく行えた。	【加藤】 ・ボランティア、企業、他の機関との協力、連携体制の良さが展示に現れている。特に、今回の企画でガイドブックが出版され、企画に併せて館内売店で関連本が販売され好評だったことは特筆される。千葉県に関連した展示物及び人物は、その旨や関連を表示すると、より県民に親しまれたのではないかと。
		・企業、他の教育機関等との連携・協力関係が良好である。	・図鑑を出版している出版社からは、取材への協力、インタビューしたタレント等の紹介、展示資料の提供など28社から33件のご協力をいただいた。 ・県立図書館、東京大学、京都大学、三重大学、国立科学博物館からは展示資料を借用した。県内各地の小中学校からは、児童生徒が自由研究で作成した図鑑を、貸出いただいた。 ・日本中の学芸員100名にお勧め図鑑を聞いたアンケートでは、全国の学芸員に協力をいただいた。	【戸枝】 ・生態園での観察会や、同定会を開催し、図鑑の使い方など実際に教示できたら展示効果の向上と、夏休み自由研究の「なに、なぜ」の解決の一助になるのではないのでしょうか。

評価項目	視点例	目標・指標	実績・内容	所見・指摘事項
④運営		<p>・展示解説書の外部販売及びそれに伴う企業の広報活動が充実している。</p> <p>・本事業の狙いや過去の広報実績を踏まえ、効果的な広報活動を行う。</p> <p>・回答率及び分析効率を高める工夫を凝らしたアンケート調査が実施されている。</p>	<p>・館側で原稿を提供することにより、支出することなしに展示解説書を作製することができた。展示解説書は展示開催前から一般書店で販売され、解説書の購入をきっかけに来館したお客様もいた。</p> <p>・解説書を作製した企業も、解説書販売のため、図書館へのチラシ配布、新聞社への働きかけなどを行った。</p> <p>・ポスター・チラシの県内博物館・美術館・図書館への配布、HPへの情報掲載、ツイッターによる情報発信</p> <p>・印刷媒体系マスメディアとしては、週刊女性自身、朝日小学生新聞、日本農業新聞、DANA、小学図書館ニュース、地域新聞、朝日新聞、毎日新聞などで取り上げていただいた。</p> <p>・放送系ではNHKの「視点・論点」で今回取材した「やくみつる」氏が、解説のなかで展示を紹介してくださった。</p> <p>・Twitterやブログでは、古い図鑑を手にとれるところがすごい、小学生の手作り図鑑のレベルが高い、図鑑の制作過程が興味深かった、など、好意的な意見が多く寄せられた。他方「乗り物の図鑑はありませんよ」と、こちらが気がつかなかった注意を促して下さっているブログもあった。</p> <p>アンケート回収率が低かった。要因は、体験イベントのアンケートも実施したためであると思われる。</p>	<p>【黒田】</p> <p>・イベントと企画展示室への導線がはっきりしておらず、展示へ促すイベントにはなりえていない印象を受けた。</p> <p>・イベント参加者は楽しんで参加している様子がうかがえた。</p> <p>・各イベントの難易度にばらつきがあり、イベント自体の目的と問題を開発する各担当者の意思統一がうまくなされていない印象を受けた。</p> <p>・図書館との連携が良好に作用されている点は良かった。</p> <p>・図録の値段が抑えられ、頒布には役立っているように感じた。</p> <p>・アンケート回収については工夫が凝らされていたようには感じなかった。回収率を上げる工夫を凝らしてほしい</p>

総合評価	
段階評価	所見・指摘事項
4.0 (石川・加藤・戸枝・黒田)	<p>【石川】</p> <p>・時期内容に適合した好ましい企画。意義あるもので、評価する。県民受けするキャッチフレーズを工夫したい。個人的意見であるが、夏期は昆虫など好評なものを継続的に企画するのも一案ではないか。今回は館内の協力体制が感じられ、今後が期待できる。</p> <p>【加藤】</p> <p>・館の総合的な力が現れた好企画であった。図鑑もって出るときに、野山だけではなく、県内各館にも訪れるよう、夏行事が一覧できる工夫も欲しかった。それが、中央博物館としての役割の一つではないでしょうか。</p> <p>【戸枝】</p> <p>・「図鑑」について多方面からアプローチされ分かり易く展示・解説されており、中央博物館らしい展示であると感じました。幅広い入館者の獲得と展示効果を高めるため関連イベントが多種組まれている。また、多くの展示協力者がいることはこの展示開催までの苦労がうかがえます。</p> <p>【黒田】</p> <p>・開催時期と企画が合致し、かつ多角的に図鑑を考えることのできる良い企画展であると思う。また、関連イベントや館内外の展示協力体制の多用さからも、入場者獲得への尽力を窺えた。今後もこうした幅広い視点からの企画を継続してほしいと思います。</p> <p>・ただ、総合博物館の企画展として見る場合、自然系に偏りがあり、物足りなさを感じるかもしれないと思った。</p> <p>・総合博物館が行う企画展として、より深く掘り下げた企画展を行ってほしいと思う。予算措置などの問題もあると思うが、より多視点から切り込んだ中長期的な調査研究をふまえた企画展が行えるような組織づくりが行えるようになることを願っています。</p>

評価の判定基準 4:高く評価できる 3:評価できる 2:部分的に見直しが必要 1:全面的に見直すべき

対応
<p>・頂いた所見・指摘事項は、予算や展示バランス、展示品名や行事予定などの公開されている情報との関係を検討し、以下のとおり改善した。</p> <p>①アンケートの回収率を上げる工夫については、イベント参加者へのアンケート用紙の手渡しや掲示物の追加を行った。</p> <p>②アンケート用紙の手渡しは、イベント参加者を展示室に誘導する効果もあった。</p> <p>③展示ケース内資料と閲覧用図鑑の関連づけ強化については、ケース内に説明文を書いた三角コーンを追加した。</p> <p>④生態園との関連づけについては、第一企画展示室出口に、生態園での関連行事等についての案内掲示を追加した。</p> <p>⑤子ども向け解説や展示内容の掘り下げ、他館の行事紹介など今回対応できなかったご指摘も、次回以降の展示に反映させる。</p>